

## どんぐり異変

馬場 政孝

玉川上水沿いにはどんぐりが実る木がある。主にコナラとクヌギであるが、ところによってはマテバシイも見られる。毎年秋になるとたくさんのどんぐりを落として、季節の移ろいを実感させてくれる。コナラの実はやや細長くいかにもどんぐりらしい形をしているのに対して、クヌギのそれは枳の実に似て丸みを帯びていて大きい。今の家に住むようになって、最初の頃は何かを使う目的もなく嬉々として拾い集めていたが、いつのまにか当たり前になって特に注意を払うこともなくなっていた。

昨年秋、上水沿道を散歩していて異変に気がついた。どんぐりが落ちてくる時期になってもそれが見当たらない。「変だなあ」と思いつつ探してみても、たまに見つけるものは虫食い跡があったりして明らかに一年前のものであって新しいものではない。結局、昨年は一個のどんぐりも見つけることは出来なかった。こんなことはこれまで経験したことがない。

実は「おかしい」と思ったのは、さらに一年前の秋にもあった。そのときは、どんぐりが少なくなったのではなく、逆である。異常に多かったのである。足の踏み場もないくらいたくさんのどんぐりが落ちていて、踏み潰さねば前に進めないほどであった。このときは、「こんなどんぐり豊作年もたまにはあるのかなあ」という程度の思いを抱いただけであった。その異常さに気がついたのは、一年後に今度はまったくどんぐりが見られなくなったときであった。木のほうは明らかに何かの異変に気づき、それに対する防衛措置をとったに違いない。

上水沿いの木々の紅葉と落葉に変化が現れたのはずいぶん前のことである。以前はある時期に一樣に葉の色が変化し、11月の23日ころに一斉に落葉していた。なぜこんな日にちまで挙げることができるかといえば、その日が『勤労感謝の日』であり、落葉のピークになる日として結び付けて覚えていたからである。ところがいつしか紅葉と落葉の時期がずれ始めるようになった。今はどうか。11月23日にはほとんどの木がまだ青々としていて、イヌシデとケヤキが変色している程度である。12月の10日過ぎあたりになってようやく落葉が目立つようになり、年内に一応すべて葉を落とす。ほぼ2週間から20日遅れで紅葉と落葉が起こるようになったのである。変化したのは時期だけではない。紅葉と落葉の仕方にも変化が現れている。端的に言って、メリハリがなくなってだらしくなったのである。変化がはっきりとせず、中には青い葉のまま落ちてくるし、一斉に落ちることはなく、だらだらと少しずつ落葉している。おそらくこれは温暖化の影響だろうと思っている。地球温暖化だけではなく、上水を取り巻く環境の急速な変化(都市化)によるものと考えられる。

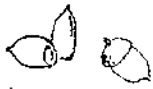
こんな紅葉と落葉の変化が以前からあったので、最初はどんぐりの一件も温暖化と結びつけていたが、最近別の要因を考えるようになった。酸性雨である。

上水の沿道や雑木林にある赤松の多くが、いまや枯れ死している。生き残っているのはわずかである。いわゆる松枯れ病でやられたものである。農林省はこの病気の原因をマツノザイセンチュウとする見解を保持し続けているが、専門家の中には疑問を呈する人もいるようである。直接的原因はマツノザイセンチュウであるにしても、大気汚染・酸性雨などが複雑に作用して松を弱らせたことが重要な問題と見ているようだ。中国の工業化や自動車の普及による大気汚染の影響を強く受けた島根県において、松枯れ病がもっともひどいらしい。

ドイツのシュヴァルツヴァルト(黒い森)では大気汚染・酸性雨によって枯れ死した樹種はドイツトウヒなどの針葉樹だけではなく、ブナやオークなどの広葉樹も含まれているというから、酸性雨が降り注いでくるとマツがやられ、やがて、どんぐりを落とすナラ、クヌギも危うくなるに違いないと思う。

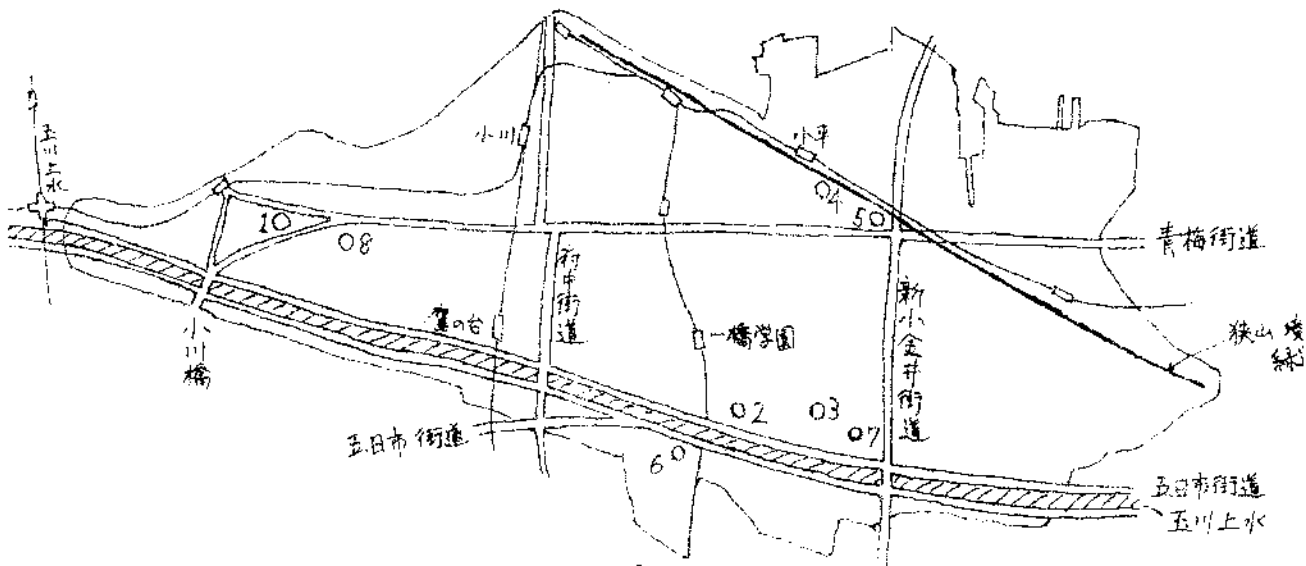
一昨年秋、上水沿いでどんぐりが大量に放出され、昨年秋、それがまったく見られなくなったということは、木のほうで酸性雨や温暖化やその他の複合的要因による危機的状況を察知した結果ではないだろうか。こうした状況によってマツに続いてコナラやクヌギが枯れるなんてことがないことを祈りたいが、これからどんなものだろうか。

一昨年秋には上水沿道の笹に花がついていたことも気になる出来事である。



## 水辺に親しむ

平成18年度に小平市で用水路を生かしたいいくつかの整備が行われました。また、小平市市民活動支援公募事業の助成金を受けて、当会の「憩いのスポット作り」の第一弾として三箇所の水門の化粧直しも行われ、水辺がより親しいものとなりました。

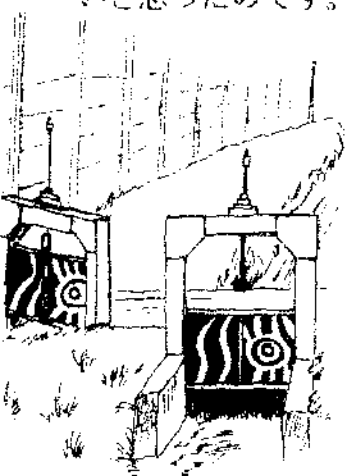


- 1、 小川一番水門（小川用水）  
デザイン:高橋奈保子 水の流れをイメージしています
- 2、 喜平町水門(新堀用水)  
デザイン:高橋奈保子 これも流紋を現しています
- 3、 回田町水門(鈴木用水)  
デザイン:角 早桐 野原を流れるせせらぎをイメージ、飛んでいるのは水しぶきかな、蜩かな?
- 4、 あじさい公園  
暗渠部の小川用水が開渠となり、親水ゾーンもできました。
- 5、 延命寺公園（仮称）  
大沼田用水を生かし、洒落た憩いの場所となりました。
- 6、 上水本町ピオトープ  
砂川用水から水を汲み上げ、覗けば小魚の魚影が楽しめます。
- 7、 氷川通り道路整備  
暗渠であった田無用水がささやかですが顔を出します。
- 8、 小川緑地  
北側半分は平成 19 年度の整備となりますが、将来的には敷地内に用水路を引き込む計画があります。



## 水門の絵つけ 角 早桐

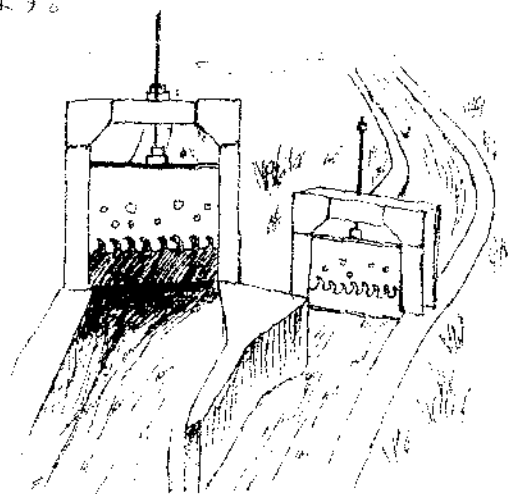
小平市内を流れる用水路に四箇所の水門があります。錆びて、汚れて見向きもされません。そこで「こだいら 水と緑の会」の私達で、市の補助金を使って絵を描くことになりました。人々に綺麗な水の流れと水門に目を向けてほしいと思ったのです。



昨年 10 月小川用水の水門で、市内の小学五年 8 名と一緒に楽しく錆と汚れを落とし、次に何度も地色のペンキを塗り、武蔵野美大の高橋さんによる「水の流れ」をイメージする絵を描き、斬新な絵柄の水門が出来ました。青梅街道からも目だって見えます。

続いて回田町の水門 2 基にとりかかりました。ペンキの色数が少ないので 3、4 色を混ぜ合わせ、薄め液で薄めて塗っていきます。緑と青が綺麗な色に仕上がりに、水面に映って素敵だな、と内心喜んでいました。学校帰りの子供達がよく遊びに来っていますが、喜んでくれているかなあ。

最後に喜平町の大きな駐車場の奥、自立たない場



所ですが、渦をイメージした絵になりました。

楽しい作業で、化粧直した水門と用水路が街を潤し、小平の誇りになってくれたらと願っています。

## せせらぎを見つめること一癒しの効用 橋村 悟

一年間に3万人もの人が自ら命を絶ってしまう、という信じられない時代。現在の小平市の人口が18万人弱ですから、6年間で小平市からは誰もいなくなる、という計算です。考えると恐ろしくなります。

現代人は、とても疲れています。体も、それ以上に精神的な部分で。子供達の間では陰湿ないじめがはびこり、大人達はそれ以上に苛酷な現状の下で生きています。精神的に余裕がなくなると、捌け口として人に当り散らしたり、煙草やアルコールに依存してしまうこととなります。果ては薬物にまで走ってしまう人もいます。ストレスがもたらすこれらの症状は、結果的に心身両面を破壊させ、自らの寿命すら縮めてしまいます。そして自分のみならず、周囲の人にも不幸に陥ることとなります。

市内の用水路には、羽村の堰から取り込んだ多摩川の水が今も流れています。玉川上水を流れた多摩川の水は、東京都水道局小平監視所まで達した後、そのほとんどが地下の埋設管で東村山浄水場に送水されます。監視所から下流の玉川上水と野火止用水に流れる水は、残念ながら下水を高度処理した水です。玉川上水に沿って、西武多摩湖線まで平行して流れる小さな川があります。一これが、新堀用水です。

監視所まで流れてきた多摩川の水の一部は、浄水所には向かわず、この新堀用水へと流れてくるのです。新堀用水から小川用水がまず分岐し、新堀用水も更に下流で鈴木用水・田無用水へ、そして大沼田用水、さらに野中用水へと細かく分かれていきます。

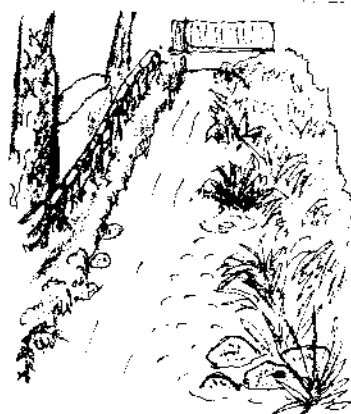
市内には、これらの用水に面した公園や整備された場が、既にいくつかあります。今年の1月あじさい公園の整備工事が完了し、周囲を流れる小川用水の蓋が外されて流れを見ることが出来るようになりました。更に今年の3月末までに、砂川(深大寺)用水の水を引き込んだ上水本町ビオトープ公園が、狭山・境自転車に面し、大沼田用水の流れを活用する延命寺公園(仮称)がそれぞれ完成します。用水路を活用したこれらの憩いのスポットが、次々と誕生するのは大変喜ばしい限りです。

このような場で、用水の小さなせせらぎを見つめ、眺めていると、自然と心



が落ち着きます。前述したとおり、この用水の水は遥か奥多摩から流れてきた多摩川の自然水なので、当然に綺麗です。日々の過剰なストレスに苛まれて、何もかもが嫌になっている人は、是非この小さな流れを見つめてほしいと思います。時には流れを見つめながら、一人こっそり泣いたっていいじゃないですか。清廉な用水の流れは、そんな貴方の苦痛や苦悶、悲しみからくる涙を同時に流れ去らせてくれるでしょう。

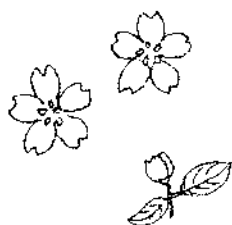
陽光を浴びてキラキラと光る流れは、今度は癒しと元気を与えてくれます。殺伐とした今日の世相から離れて、心の豊かさをむしろ尊び、心安らかに生きること一ただそれだけを人生の目標にしてもいいと思います。市内を流れる用水路は、その助けとなってくれることでしょう。



## ☆新会員紹介・・・留松 里詠子(とめまつ りえこ)さん

武蔵野美大、視覚伝達デザイン学科で環境デザインを学んでいる、高橋さんの後輩にあたる学生さんです。お住まいは葛飾区ですが、用水路を活用した街づくりに大変意欲を燃やされています。

仕事始めに、今回の会報の編集とレイアウト、5月18日に開催されるグリーンフェスタのポスターを手掛けてくれました。若くて可愛いお嬢さんですが、趣味はジャズ鑑賞と泳ぎ！



当会では会員を募集しています。

平成19年度は、グリーンフェスタの実行委員会参加、小川一番の用水路整備への提言、市民活動支援公募事業の第二弾としての案内板設置等、やりがいのある活動があります。自然が好きな方、環境に関心のある方、小平が大好きな方、貴方も是非ご一緒に活動してみませんか？

### 平成19年度上半期の活動予定

- 4月 4/10:00~ 用水ボランティア 小川用水、  
15/10:00~ 春のふれあいウォーク 花小金井駅南口集合、  
25/19:00~ 定例会 中央公民館学習室3
- 5月 2/10:00~ 用水ボランティア 鈴木用水、  
13/10:00~ グリーンフェスティバル 中央公園グラウンド南側、  
19/10:00~ 春のふれあいウォーク 東大和市駅改札口集合 こもれびの足湯に入る、  
23/19:00~ 定例会 中央公民館学習室3
- 6月 2/9:00~ 奥多摩植樹事業参加 花筏集合、

3/10:00~ 全国一斉水質検査参加 東部と西部の2グループで実施、

6/10:00~ 用水ボランティア 新堀用水、

27/19:00~ 定例会

7月 4/10:00~ 用水ボランティア 大沼田用水、

25/19:00~ 定例会

☆この他に用水路を活用した公園の手入れとグリーンの実行委員会が入ります。

## 薬用植物園について

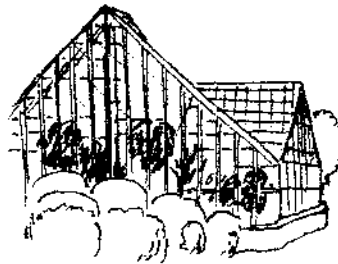
須賀 美佐子

今年もソメイヨシノの開花が待ち遠しい季節になりました。薬用植物園の林地にひっそりと群生するカタクリも、同じ頃には開花するそうです。この会報が発行される頃には、どんな風景を見せてくれるのでしょうか。楽しみにしています。

西武拝島線の東大和市駅近くに「東京都立薬用植物園」は、あります。年末年始を除く毎日開園し、31,398㎡の敷地に1600種あまりの薬用植物が栽培されています。薬事の般解放され、園内の植物とができることから、

研究機関ですが、無料で一年を通して楽しむ多くの方に親しまれてい

ます。昨年1月に、「薬用植物本的な見直しが行われる」小平市在住の市民有志による「考える市民の会」が発足しとして参加しています。



園に対し廃止も含めた抜くことを新聞報道から知り、「東京都薬用植物園をました。当会も賛同団体

現在の機能と、開かれた薬の保全を求める要望書に署名をした。最終的に、本年3月5日まで提出することが出来ました。皆様からご協力を戴きまして誠にありがとうございました。

事公園的な場の確保と、緑添付し、都庁に提出しましたに11,178名分の署名を集計し

今後は、現在の植物園の機能を維持しつつ、将来の民営化を視野に入れ、19年度より栽培・啓発業務等を民間委託で実施していく予定とのことです。さらに東京都では「大幅な見直しが必要」とのことなので、「市民の会」は引き続き薬用植物園を見守っていきますので、これからもご支援・ご協力をお願い致します。

多くの植物が待っています。春満開の薬用植物園へおでかけください。

東京都薬用植物園をまえる市民の会への問い合わせ

事務局 須賀 Tel 042-344-2807 Fax 042-346-5538

**水辺に佇む** 小平市内を流れる用水路の傍に、静かに佇む石造物があります。それらは今から 100 年、200 年前に造られたもので、その時代に小平に住んでいた人達の様々な思いがこめられています。今度目にする時は、ちょっと注意してみると面白いと思いますよ。今回は小川橋の石橋供養塔を紹介します。

### 小川橋の石橋供養塔

造立年月日 天保 13 年 6 月(1842)  
 形 状 角柱 小松石  
 法量(高・幅・厚) 145・35・23  
 造立者等 武州多摩郡小川邑講中 20 人

銘文 南(塔身正面) 石橋供養塔 世話人願 小川小太夫  
 小川彌一郎  
 村野源五右衛門  
 師岡市左衛門  
 主 田堀  
 丸山平七

東(塔身右側面) 武 多摩郡小川町 世話人 小川 右り  
 村中  
 砂川 江戸みち  
 所沢  
 西(塔身左側面) 天保 13 年寅年 6 月 左り みち  
 山口

北(塔身裏面) 石工引又町 藤五郎



**石橋供養塔** 人々の通行する橋や道路、石橋の建造に際し、それが永く使用に耐えることを祈念して供養塔を造立する習俗が江戸時代頃から現れるが、その中で最も多く見られるのが、石橋供養塔である。新たに石橋を架け替えたときに、永久に破損することなく、かつ通行の安全を願って造立された。形状は自然石型や角柱形が多く見られるが、馬頭観音や地蔵の像を刻んだもの、あるいは庚申塔を兼ねたものもある。

市内には全部で 6 基あるが、そのほとんどは用水脇に位置している。いずれも江戸時代に属し、その最古の例は寛政 12(1800)年造立で、回田中通り入り口にある。また小川橋脇の例は高さ 145 cm にも及ぶもので、上部に東西南北を刻み道標を兼ねている。

— 小平市教育委員会出版 「小平の石造物」より抜粋—

石橋供養塔の説明文の中に供養塔が 6 基あるとありますが、あとの 5 基は下の場所にあります。

1. 上水本町 2 丁目 天保 15 年(1842) 砂川用水

- 2、回田町 安政 6年(1859) 鈴木用水
- 3、回田中通り 寛政 12年(1800) 鈴木用水
- 4、回田中通り 文化 13年(1816) 鈴木用水
- 5、花小金井円成院境内 文化 5年(1808) 大沼田用水

川 「小平には川がない」と言われます。正確にはそうですが、小平の地を開拓し、この地に住み続けられた人々は、用水路を「川」と呼んでいました。

馬場 淑子

山 「小平には山がない」と言われます。正確にはそうですが、小平の地を開拓し、この地に住み続けられた人々は、雑木林を「山」と呼んでいました。

その呼び方から推察されるように、人々は用水と雑木林を大事に手入れし、共に暮らしてきたのです。川と山という呼称に、謙虚さと、いくばくかの虚勢を感じますが、昔日の人々が用水の透き通る流れを日常的に汚すまいとし、定期的に雑木林に入って間伐し、秋日の柔らかい陽光が木々の合間から斜めに差し込む中で落ち葉を掃いている姿が目には浮かびます。そして、そこにはたくさんの生き物が今でも生活しています。先達の守ったものを、私達もより良い環境として守れないとしたら、恥ずかしいことだと思います。

☆ 当会は「用水ボランティア」として用水路の清掃をしています。秋には「水と緑と公園課」主催による雑木林の落ち葉掃きに参加しています。集められた落ち葉は、堆肥や、子供用の落ち葉プールになり、多くの市民団体や企業も自主的に参加しています。また「小平 環境の会」の呼びかけによる玉川上水沿道の落ち葉掃きもあります。落ち葉は農家さんに堆肥として使用してもらいます。どの活動も参加は自由です。個人の参加も出来ますので、一緒にいかがですか？

編集後記

留松里詠子

初めまして。3月に入会したばかりですが お仕事を任せていただいて大変うれしいです。デスクワークだけでなく 用水ボランティアや 雑木林のお手入れ等にも積極的に参加していきたいのでよろしくお願ひします。雑木林を所有している農家の方にお話を聞いたことがありましたが、そのおじいさんは「昔はこの辺りは全部山だったよ。」と教えてくれました。私もその山と川に対する敬虔な気持ちを大切にしてこの会で活動していきたいと思ひます。(ムサビのジャズ研で定期的に演奏もしているのでよかったら遊びにいらして下さい)

問い合わせ・ご意見 042-345-6772 馬場

HP <http://www009.upp.so-net.ne.jp/water-green/>